

浦和大里小コミスクだより

令和8年度 第2号 令和8年10月

長雨や台風接近により青空が恋しい日々が続いていますが、学校では、多くの児童が元気に登校、笑顔で下校を心がけ、はつらつとした声が響き渡っています。

9月24日（木）、第2回学校運営協議会が開催されました。

浦和大里小学校では、5月の第1回学校運営協議会で承認された「学校運営に関する基本的な方針」に基づいて、地域の皆様や保護者の皆様からご支援とご協力を賜りながら、令和8年度教育活動計画を実行してきました。お陰をもちまして、円滑に進行し、上半期を無事に終えることができました。今回の協議会においては、校長から「全国学力・学習状況調査」の結果と本年度の5つの重点目標に対する取組を中心に「学校運営及び取組実践に関する中間報告」を行うとともに、下半期を迎えるにあたっての新たな決意表明がありました。なお、協議会前後を利用し、学校運営協議会委員が学校の様子等を観て回り、学校運営の参考としました。以下、概要についてご報告いたします。



令和8年度 第2回学校運営協議会 概要

1 「学校運営及び取組実践に関する中間報告」

(1) 文部科学省「全国学力・学習状況調査」(対象：6年生)の結果

○「教科に関する調査」

- ・国語・算数ともに平均正答率は良好な結果であった。これまでの学習に関する研究の成果が現れていると思われる。
- ・本調査の結果を踏まえ、今後も授業の在り方や指導の工夫について研究を進めていく。

○「質問調査」

- ・各質問項目に対して肯定的な回答率が高い値となった。自己肯定感に関する「自分には、よいところがあると思う。」「先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思う。」の質問項目は、90%を超え、過去2年を含めて良好な体制が築けていると思われる。
- ・「困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人についても相談できる。」の質問項目は、肯定的回答が約84%となり、経年の調査結果では毎年上昇している。しかし、残りの約16%の回答結果に着目して更に対策を講じる必要がある。
- ・「地域や社会をよくするために何かしてみたいと思う。」という質問については肯定的回答率が約89%であった。総合的な学習の時間での計画的な活動や地域の方々の理解や協力によるフィールドワーク、地域行事への参加等で、地域に対する関心が発達段階に応じて高まっていき、地域を大切にしようとする姿勢・態度が培われていると捉えている。
- ・「5年生までに受けた授業では、課題の解決に向けて自分で考え、自分から取り組んでいた。」「5年生までに受けた授業では、各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行っていた。」という質問項目は、90%前後の肯定的回答率となった。児童がPDCAサイクルを意識することで、自己調整能力が高まっていくと捉える。

(2)「5つの目標」の取組状況

○目標1「真の学力の育成」

- ・これまでの9年間を見通した小・中一貫教育課程の研究の成果を生かした授業が実施できている。
- ・教員と児童間で評価基準を共有し、客観的で一貫性のある評価を目指すルーブリックを導入した授業、自分で考え、決める、試行錯誤する活動を取り入れた授業で、児童の主体的な学びが実現し、個々の学力向上が図られてきている。
- ・本年度より新たに文部科学省指定「教育課程柔軟化サキドリ研究校」事業にチャレンジしているが、研究熱心な教職員チームを尊重し、大切にして取り組んでいる。

○目標2「Well-Beingの保証」

- ・児童の「よさ」に着目し、努力を認め、励ます教育の定着に向けて、教職員相互で声を掛け合いながら、児童に寄り添い、支えることを土台にして推進している。
- ・スクールダッシュボードを活用し、迅速な情報共有と組織的対応を行っている。
- ・「Sola る一む」を始め、個々の児童にあった居場所を共に考えていく。

○目標3「地域とともにある学校」

- ・総合的な学習の時間の「推しの街」、「優しい街」をテーマにした地域をフィールドとする活動により、地域に貢献しようとする意識が高まってきている。
- ・スクールサポートネットワークの各団体や地域住民、保護者、幼稚園と保育園・小学校・中学校等との連携事業が定着しつつある。また、PTA本部とも連携し、「Hi! アプリ」を活用してボランティア活動に係る協力依頼を広報することにより各ボランティア組織への登録者数が増加している。

○目標4「安全安心で美しい学校」

- ・古い備品の点検や不要の備品の廃棄を計画的に進め、義務教育学校を見据えた校内環境整備と予算執行を進めている。
- ・安全点検の徹底と即時対応に注意喚起している。本年度は、県外の学校火災事故発生を受け、直ちにコンセントを含めた電気機械器具の点検を実施するとともに救助袋の実地研修を行った。

○目標5「生き生きと働く教職員集団」

- ・児童に関するよい話ができる職員室、風通しのよい職員室を目指している。
- ・問題を個人で抱えず、誰かに直ぐ話し、複数で対応するように教職員に指導し、迅速で、組織的な体制で日々臨んでいる。
- ・研修は、児童のために、教職員ひとり一人が力量を付け、自分たちで高め合うものであるという意識が定着し、全教職員で2030年度実施予定の学習指導要領に基づく教育の理解し、

2 「児童委員会等からの説明・提案」

(1) 前期児童会会長から「さいたま市ストップいじめ！子どもサミット」の参加報告

市立小・中学校の代表児童生徒や地域の方々が一堂に会し、いじめの撲滅を目指す各校の取組を紹介し合い、いじめがなくなるように一丸となって取り組むことを決意表明しました。他校の取組が2学期からの活動の参考となり、とてもよい機会となりました。今回の活動内容の例です。

- 「いじめクイズ」➡ 場面を書いた例文が提示され、いじめかどうかを回答する。いじめの定義が具体的にわかっていき、日常生活の中でいじめ防止の意識が高まる。
- 「いじめ防止スローガンづくり」➡ 中学校区と10区ごとにいじめ防止スローガンを作り、地域にも広める。南区は、「あいさつでつながり、あたたかい思いやりの輪を広げよう！」に決定。

(2) なかよし委員会の児童からの取組説明とお願い

本年度新たにできた児童委員会です。学校全体が仲よくなるような活動を行っています。

- 1学期の活動内容例⇒「なかよし点つなぎ」をクラス内で取り組んでもらった。「いじめに関する動画」を作製し、6月のいじめ撲滅強化月間に一斉公開していじめについて知ってもらった。
- 2学期の活動内容⇒「あいさつ運動」を登校時に正門と北門で行う。1か月で15回前後をクラスごとに割り振り、毎回3名ほどで手製の看板やじゃんけんボードを用いて現在活動している。

☆地域の方々へのお願い

浦和大里小学校の多くの人々があいさつを交わし、お互いの距離が縮まっていくことで、毎日登校が楽しみになり、笑顔で一日を過ごせると思っています。そして、地域にも笑顔が増え、地域が盛り上がるようにしていけたらよいと思っています。そのために、地域の方々と一緒に「あいさつ運動」に取り組んでみたいと考えました。都合の良いときに、私たちと一緒に活動していただけたらありがたいです。よろしくお願いします。

3 熟議「自己肯定感・相談力を高めるために」

校長の中間報告ならびに児童からの報告やお願いに対する質疑応答後、熟議を行いました。今回は、校長からの中間報告にあった「全国学力・学習状況調査」の結果の中で、肯定的回答率が高かった「自己肯定感」や「相談力」に関する質問項目に対し、「当てはまらない」、「どちらかという当てはまらない」、「わからない」など、約16%の肯定的ではない回答率に着目して意見交換し、考えを深めました。委員は、まず2つのグループに分かれて、意見を出し合い、次に、全体で発表し合い、全委員で共有を図りました。主なご意見を紹介します。

Aグループです。



- 自己肯定感について、調査の質問回答率では高い数値となったが、現在の学校は児童の自主性や主体性を求めていると思う。よい行いを褒めることの中に、ひと昔前に尊ばれた我慢する力や忍耐力についても留意したほうがよい。
- 個々の発達段階や成長過程が違うが、こうなりたいという気持ちから、目標を定めてやってみようとする意欲が生まれるような経験を積み重ねることで、自分のよさに気付く時が来る。同じ経験でも子どもによって善し悪しが異なってもよいと思われる。
- 価値観が多様化しているので、何について褒めているのかを明らかにしてあげることで、その子が褒められたこと、認められたこと、そして、自分のよさに気付くと思う。
- 例えば、あいさつでも、自分からするのか、こちらからあいさつしても返さなかった子が返すようになったのか、「おはよう」の声が大きくなったのか、子どもによって変容も違う。大人が折に触れて声を掛けなければ、その子の成長は気付いてあげられない。
- どういう言葉を掛けると肯定感や達成感が高まるのか。適切な言葉を考えなければならない。また、昔に比べ、あいさつができないと言われるが、どんなあいさつであってもこちらが「あいさつしてもらって、元気になったよ」などと具体的に返してあげることも必要と考える。
- あいさつを交わす意義は、様々あり、大きいと言える。

Bグループです。



- 困りごとや不安があるとき、先生や近くの人に相談すること、あるいは相談して解決できたり、気が楽になったりすると教えられていない子どもがいる。また、ドライとでも言ってよいのかわからないが、困りごとや不安感を他人に直接話すことではないと思っている子どももいる。大人が予想するほど、困っていないのかもしれない。
- 個々の問題になってしまうが、本当に相談が必要な子どもが、術や相談する人・窓口を知らなかったり、教えられていなかったりする例がある。保護者が必要なときに備えて子どもに複数教えておくことが大切だと思う。
- 大人も困りごとを誰に、どこに相談したらよいのか、知らないことが多い。まず、子どもが困っているときに子どもに教えてあげられる大人を増やす。次に、大人が子どものことで困っているときに、どこに相談したらよいのかを教えてあげられる他の大人を増やすことが必要である。
- できなかったことにチャレンジして、子ども自身の考えていたよい結果にならなかったとしても、チャレンジできたことを褒めることが、自己肯定感につながると考える。
- 登校を渋ったり、登校しなかったりする子どもが学校や地域のイベントに参加したら、登校が継続している例がある。参加しようとしたことを褒め、次に実際に参加したことを褒めたと聞いている。その子のハードルがどんなことなのか理解できたのだと思われる。まず、何らかの形で声を掛ける。
- 子どもが参加するか、参加しないかが第一ではなく、イベントがあること等、情報を届けること、声を掛けることが、大人同士でも、親子でも、子ども同士でも大切であると感じた。

4 その他

「学校運営等に関する意見等の申出にかかる事項等（「学校運営協議会則第6条」関係）」について、市民が駐輪するスペースと校庭とを分けるプールのフェンスが話題となりました。また、協議会終盤に開校50周年記念行事実行委員会から実施体制や進捗状況についての説明がありました。

なお、当日は、「第2回いじめ防止対策委員会」を開催しました。2学期開始から一月ほど経った学校での児童の生活状況ならびに9月15日現在のいじめ認知件数と解消状況等について、教頭より説明しました。早期発見と早期対応・予防を含めた学校と家庭の連携の重要性を全員で確認しました。

次回の第3回学校運営協議会は、令和8年2月の開催を予定しています。